

市長が提案する重要事業等の今後の進め方について問う！



栗原 収 議員

問 「映像のまち」構想については、市民の方になかなか構想全体が見えにくい現況である。スタジオ誘致と並行し、具体的な事業について市民に見える形でわかりやすく示す必要があると思うが、どのように考えているのか。

副市長 スタジオの建設整備は、「映像のまち」構想の中核をなす象徴的な施設であるが、スタジオをつくっただけでは産業や観光につながらない単なる「スタジオがあるまち」となってしまう。まずは構想実現に向けた環境整備を着実に推進し、さまざまな事項について市民に示めさなければならぬと考えている。そのためにも、本市で多くの映画やテレビの撮影が継続的に行われ、市民が映像を身近で感じられる環境、例

一般質問から

間にわたり、10議員
させて一般質問が
ました

した。6月議会の会議録は、8月下旬
索システムに掲載を予定しており
をご覧ください。

えばエキストラで参加する、撮影隊をボランティアとして支えるなど、市民が一体となって映像をつくり上げていく環境を整えていくことが、「映像のまち足利」を実現する重要な要素と考えている。

問 屋内子ども遊び場設置運営事業の施設開設後の事業者モニタリングについては、指定管理者制度と同様の仕組みを取り入れた上で、さらに第三者によるチェック機能が必要であると考えているが、市の考え方を聞きたい。

福祉部長 本事業は公費が使われることから、定期的な事業報告の提出など、適切なモニタリングの方法について、効果のある内容になるよう実施事業者決定後に協議していきたい。また、第三者による運営の評価方法についても今後検討させていただきます。

問 ごみ収集運搬業務委託契約の入札においては、過度の競争を防ぎ品質を確保できる業務委託仕様が求められるが、発注側で配慮しても低価格での競争が想定される。具体的にどういった点に配慮するのか聞きたい。

副市長 一番大切なことは、足利のごみをきちんと責任をもって収集していただけることであるが、一方で市民もごみの分別を徹底し、循環型社会をつくっていくことであると思う。その中で、業務委託のポイントとなるのは、発注した価格で本当にできるのかということの吟味であ

り、安ければいいという一方向だけの物差し判断でいいのかと感じる。ごみ収集は大変きつい業務であり、適正な賃金が支払われているのかどうかを、発注者として市が把握しなければならぬ。さらに、安心して業務に従事できる環境をつくることも大事である。その辺りも配慮しながら適正な入札を行っていききたい。



▲ごみ収集の様子

小侯町山林火災から得た教訓は！



西田 智男 議員

問 大規模な山林火災にもかかわらず人的被害や建物被害をいさぐさ終息にすることができたのは、近隣各県の防災ヘリや自衛隊の大型ヘリからの空中消火、あるいは消防職員、消防団員が連携を図り、昼夜を問わず消火活動に当たったことによるものである。今後の大規模災害への対応を考える上で教訓とすべき点があれば聞きたい。

一般質問の項目

(質問順)

栗原 収 議員

- 「映像のまち」構想について
- ・「映像のまち」構想の現状
- ・「映像のまち」構想の今後の展望
- 屋内子ども遊び場について
- ・足利市屋内子ども遊び場設置運営事業
- 一般廃棄物(ごみ)収集運搬業務委託事業について
- ・当該事業導入の経緯及び契約期間中の経過等
- ・次期業務委託契約のあり方及び競争入札と労働環境確保のあり方

西田 智男 議員

- 市長の政治姿勢について
- ・今後のまちづくりの方向性
- ・小侯町山林火災への対応における危機管理体制の検証
- ・防犯灯の全灯LED化
- ・市内外への情報発信の強化
- ・国際交流の推進



